

## ヨコハマ市民まち普請事業 第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	えだきん×夢叶きゃらばん
現在の主な活動内容・活動実績	商店街主催イベント年4回、パリジェンヌ主催イベント月1回、スマホ講座週2回、えだきんアイドル“EDK”育成&ゆるキャラ“えだきんぎょ”製作し区内イベント中心に出演。
提案場所	都筑区 荏田南5丁目
提案名 (25字以内)	リアルとバーチャルで夢を応援えだきんメタワールド
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	<p>1 青空テラス（カフェや教室開催） 現在パリジェンヌ（パン屋）の店先の古いテラスを、お一人でも気軽に寛げる設計にする。席数を増やし教室が開催できる様に収容人数も増やす。</p> <p>2 いつでもステージ（発表の場） テラスの一部を収納型ステージにして、挑戦へのハードルを下げ夢を応援！</p> <p>3 リアルとバーチャルを繋ぐシャッター シャッターにはバーチャルへの入り口となるQRコードを描く。 整備費用の概算額：約500万円</p>
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	<p>1 誰もがふらりと立ち寄れる憩いの場（サードプレイス）。 また、講座会場やコワーキングスペースとしても解放する。 活動の発信と交流を促す場として活用する。</p> <p>2 自分の特技や新たな挑戦が、手軽に披露実演できる。 活動の発表やイベント時のステージとして活用する。</p> <p>3 シャッターの降りている店舗や閉店後もバーチャル空間へ繋がる入口となる「QRコード」を描くことで、見えない世界を身近に感じる。</p>
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	<p>引きこもり気味の小中高生から高齢者など、外への繋がりを持ちたくてもハードルを感じる人がいる。人前で何かをいきなりやるにはハードルが高い。一方、バーチャルは、何度でも失敗でき挑戦できるので、ハードルが低い。でもバーチャルだけではまだ生きていけない。そこで、バーチャルとリアルを繋ぐ、中継点として「安心」して、近隣の小中高生からシニアまで、学べて体験できる「中間支援的な空間」をつくる。</p> <p>その為に必要なのが「えだきんメタワールド」。お仕事体験や学習支援、ステージ発表などを「疑似体験」できる。そこで得た通貨はリアルのえだきん商店街で使用できることで、相乗効果を生み出す。結果的に商店街の活性化にもつながる。</p> <p>シャッターにはQRコードが描かれ、バーチャル空間に日常的に参加できる。青空テラスでは、教室を開催し、アプリや電子機器を扱える人そのものを増やす。提案施設があることで、リアルとバーチャルを双方向から繋ぐシカケが生まれる。</p> <p>子どもが使い終わった自転車等おもちゃが自然と集まり、それを使いたい親子が自然と集まってくる。ここで自転車に乗れるようになった子どもは数知れず！放課後には、小中学生のたまり場となり、課題やゲーム、談笑を楽しんでいる。この場を地域の子どもからシニアまで必要としている。まち普請で更に安全に快適に過ごせる居場所として整備したい。</p>

<p>目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）</p>	<p>地域に生まれ、育ち、安心して地域で老後を過ごすことのできる場所。「ゆりかご」から「墓場」まで安心して住み続けられる居場所・まち作りを目指す。商店街を中心に、誰もが@「バーチャル」でも「リアル」でも、「小さな成功体験」をたくさん積める場所をつくることで</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 失敗を恐れず挑戦できる</li> <li>2 失敗した時に受容しあえる</li> <li>3 失敗や壁を乗り越えられる術が身につく</li> </ol> <p>これらを体験から学べる場所にしたい。</p> <p>将来的には、地域基金を作ること、例えば、地域で行われている活動に住民が投票で支援先を決めるような『地域独自の基金』を設立し、地域で支えあって生きていく社会を目指したい。</p>
<p><b>整備時の協働</b>（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<p>キックオフメンバーを募集し、得意分野に分かれ、整備時の設計、資材搬入、連絡係などそれぞれ協力体制を作る。</p> <p><b>【近隣住民、学童、他団体からのボランティア】</b></p> <p>商店街の各商店と地域住民。実行部隊として、学童や横浜市一時預かり事業の利用親子。他団体から、整備に関わる事例や情報、企業から、整備資金の支援を受ける。協働先団体に、建築設計・まちづくりの専門家がいるため、整備を進める中で、随時助言・支援を受けることができる。</p>
<p><b>運営時の協働</b>（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 キックオフメンバー イベントや祭りを企画開催し「商店街コミュニティ」を担っていく。</li> <li>2 スマホ講座参加のシニア 地域のデジタル化を広げる時に主となるメンバーであり、老後の生活負担軽減を考え「ずっと暮らし続けるまちづくり」を協働。未参加のシニア層に向けた情報発信をした結果、ロコミでの参加が増えている。</li> <li>3 SDGsの取り組みとして、食品ロスや廃棄課題を抱えた、商店街各店や近隣農家の「地域で食品ロスを循環していく地産地消」や「廃棄課題を解決するエコステーション」を協働開発、運営し継続できる仕組みを作る</li> </ol>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 これからの商店街のあり方として、体験やバーチャル空間も合わせた、多世代がリアルとバーチャルで交流できるサードプレイスとなることだが、地域や商店街の活性化の糸口となる。</li> <li>2 地域には、たくさんのスキルや経験を持った人がいるが活用できてない現状がある。また寄付をしてもきちんと目的のために使われているのかわからない現状に寄付がしづらいという声もある。</li> <li>3 体験や多世代交流から、好きなもの・夢中になれるものに出会う機会を得ることで、「自分らしさ」や「夢」を発掘でき、新たな価値が創出される。年齢問わずICTへの理解を深めるきっかけとなり、地域資源を繋ぐことで、必要な人に必要な資源を、安心安全に届けることができるハブとなる拠点を整備し、誰もが笑って過ごせるまちづくりに寄与する。</li> </ol>

注4）「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5）への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
土地建物所有者	一昨年から引き続き説明をしています 立ち退く際、原状回復してくれれば特に問題ありませんとのことでした

注5）土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

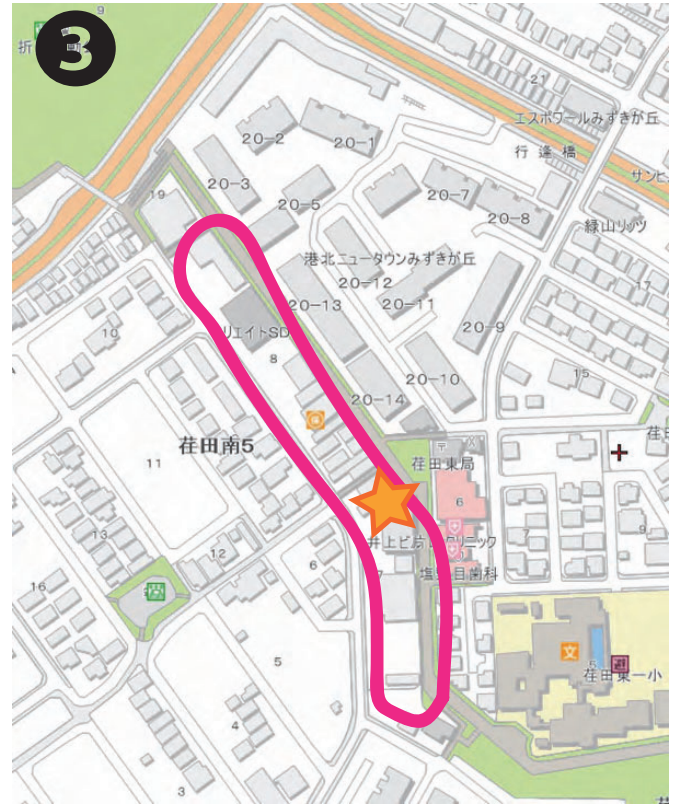
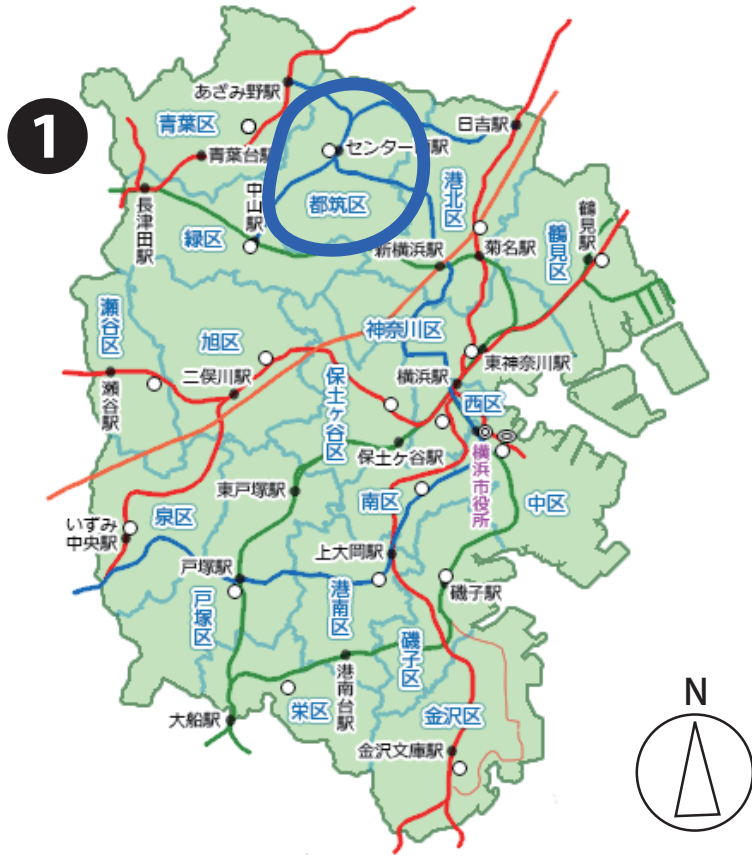
記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。



# えだきん商店街の位置図

- ①「都筑区」は、横浜18区の中の北部に位置し、「青葉区」「緑区」「港北区」に隣接する
- ②「センター南駅」から、遊歩道を通り、徒歩約20分程の場所にある  
(都筑ふれあいの丘駅から、徒歩約18分。江田駅から、徒歩約23分)
- ③「えだきん商店街」は、遊歩道に繋がるレンガ道で、四季折々の花が彩る都筑区最古の商店街





◆現状写真



えだきん名物：しだれ桜とサクラソウ  
※さくらそうは、都筑区の花

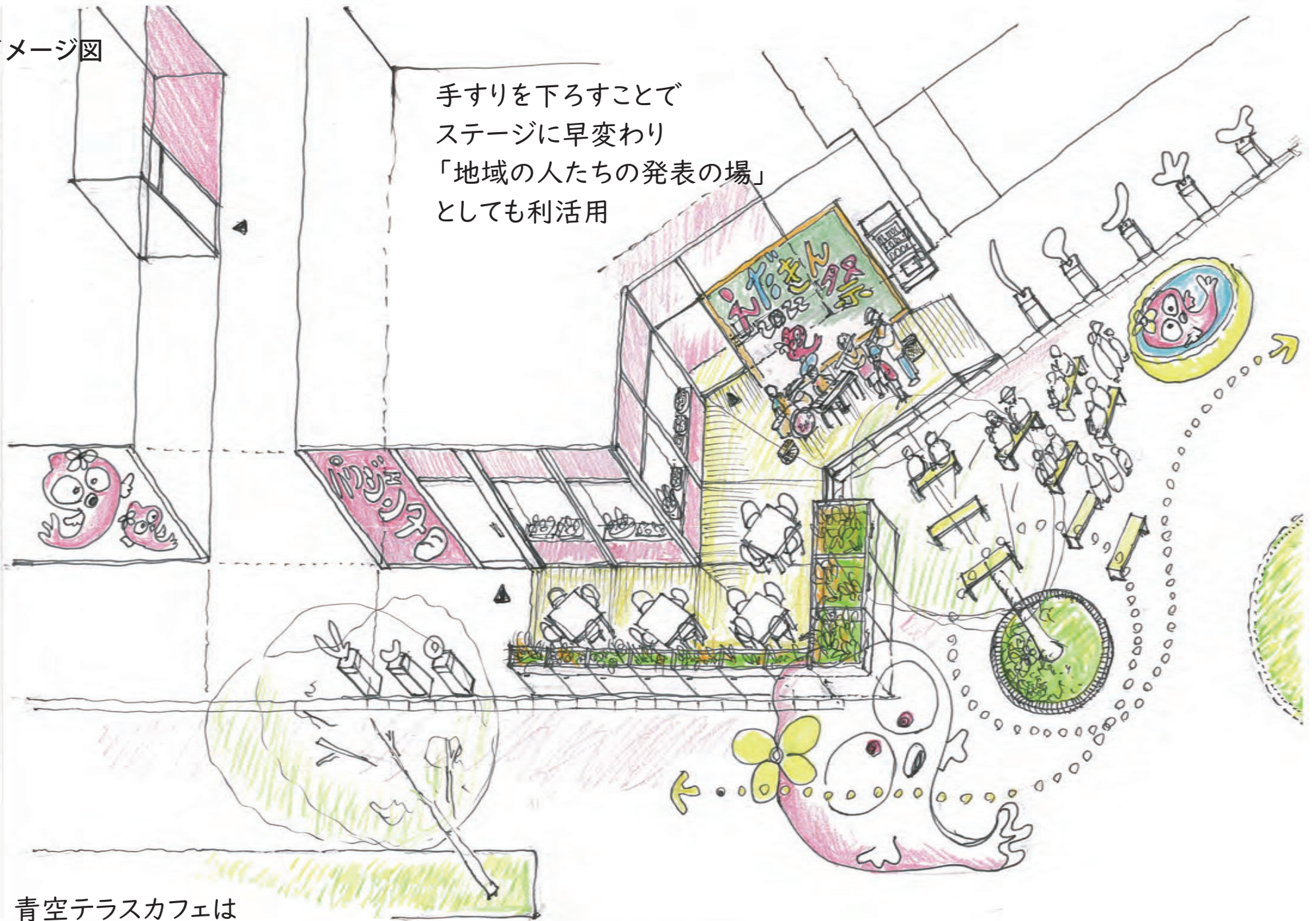


テラスからの風景は緑豊か



活用イメージ図

手すりを下ろすことで  
ステージに早変わり  
「地域の人たちの発表の場」  
としても利活用



青空テラスカフェは  
誰でもふらりと立ち寄り自由に交流できる。  
毎月ミニ講座や催し物を開催し、地域情報発信。

モニュメントやシャッターアートで  
花の彩りと相まって、えだきんの新名所に。



## えだきんパリジェンヌ前のテラスの現状

◆放課後は、小中高生のたまり場に。彼らに何してるのか聞いたら  
「なんとなくここにきて、しゃべったり、ゲームしたり、宿題やったり、パン食べたり」  
「僕は、小さな子がいたら、ボールで遊ぶことはしません」とのこと。  
適度に、地域の人の監視の目があることで、社会のルールを学ぶ機会にもなっているようです。



ここが綺麗になったらどうする?と聞いたら、「毎日来ます!」と笑顔で即決してくれた、近隣の中学生。  
ずっとずっと、子どもたちが安心して集まれる場でありたいと、強く思いました

◆月1回行っている、「パリジェンヌパン対決」の様子



◆老朽化により「小さなお子さん」には、やや安全性が心配になりつつある。

現在は、アウトドア用のテーブルを4台並べただけの簡易的なテラスとなっている。  
このテーブルも老朽化により、反り返っていて「ペンが転がってしまう」こともある。

